

2020年2月度(第374回)ライフサイエンス分科会

開催日時：2020年2月20日(木) 14:15～17:00

開催場所：日本図書館協会会館 5階 会議室4

参加人数：5名

内容：「DRUGDEX®」をはじめとした「IBM Micromedex®」のご紹介

記入者：株式会社テクノミック 中北 穰

1. 「DRUGDEX®」

(FDA 承認薬(一部のEMA・カナダの承認薬含む)を収録するNICE(英国国立医療技術評価機構)認定の編集プロセスにて作成されたエビデンスに基づくバイアスのない医薬品情報のデータベース)

医療機関での利用目的；添付文書にない医薬品情報の収集

・適応外使用：特定機能病院の承認要件の一つである適応外使用の評価時にエビデンスを調査

・同効薬との比較：フォーミュラリーの情報源の一つ書籍を回覧：

『[フォーミュラリーマネジメント-院内フォーミュラリーから地域フォーミュラリーへ-](#)』

「DRUGDEX を活用したフォーミュラリーマネジメント ～作成から更新～」

製薬メーカーでの利用目的：腎障害・肝障害患者への投与、相互作用など

副作用(骨髄機能抑制)後、再投与時の用量の出典としているインタビューフォームあり
質疑：

・Q)情報源は文献だけか→A)米国のProduct Informationなども含まれる

・Q)エビデンス採択にどのくらい時間がかかるか→A)特に決まっていない

・Q)元文献へのリンクにDOIはあるか→A)リンク先はPubMedである

・Q)[Comparative Efficacy]は複数の文献をreviewしているのか→A)引用文献数はまちまちである

・Q)コンテンツ間の画面遷移→A)契約コンテンツによる

・Q)医療機器も収載されているか→A)対象外である

2. 「POISINDEX®」

(428,000以上の市販製品・化学物質・医薬品・有毒の動植物の識別情報と、1,780以上の詳細な曝露時の治療方法を物質ごとに収録する中毒物質の同定と管理のデータベース)

・Colorado大学小児科医のDr. Rumackが、臨床現場で直面する中毒事故(農薬の誤飲など)における症状や治療の情報を集めたのが「Micromedex®」のはじまり

・中毒110番(中毒情報センター)、救急対応をはじめ、地下鉄サリン事件・伊勢志摩サミット等、化学テロ対策の情報源としても利用されている

・福島第一原子力発電所の事故後、日本医薬品情報学会からの要請を受け、当時の製作元許諾のもと放射線障害関連のモノグラフが無料で公開された

日本医薬品情報学会>JASDIデータベース>[MICROMEDEX 翻訳プロジェクト](#)

質疑：

- ・Q) 過量投与の調査に使えるか (投与量の調査全般が難しい) →A) まさにそのためにある
- ・Q) 「Index Nominum」とはどのようなものか、その用途は? →A) 医療機関であれば、海外から一時帰国した患者/これから海外渡航する患者に薬剤を処方するにあたり、その国で入手可能な薬剤かどうかを調査。製薬メーカーであれば、海外における自社製品の承認有無・商品名の調査
- ・Q) 画面右下の[Ask Watson]は何か →A) AI の Watson に対話形式で検索できる機能 (英文入力による)

■両データベースに共通する質疑:

- ・Q) 実際の医薬品使用の観点から記載された具体的かつ詳細なテキストは、タイトル・抄録・シソーラス等から検索する文献データベースではすぐには見つけ出すことができないことから、これらテキスト情報は本製品の特徴と思われた → A) そのように考えている
- ・Q) 調査会社向けに提供しているか → A) 契約機関によらず、二次利用を目的としたご契約はお請けできない

3. 次回以降の予定

3月: 休み 4月: 4月16日(木) 内容は未定

以上